

## 平成 29 年度第 2 回胆江圏域地域医療連携会議 議事録

- **開催日時** 平成 29 年 10 月 31 日（火） 18 時 30 分～20 時 00 分
- **開催場所** 奥州市水沢地区センター 2 階会議室
- **参加者** 別添出席者名簿のとおり
  - ・委員 23 名中 22 名出席（本人出席 20 名、代理出席 2 名）、欠席 1 名
  - ・オブザーバー 6 名中 6 名出席

### 【会議等の概要 下記のとおり】

- 1 **開 会** 渡辺企画管理課長
- 2 **挨拶** 杉江所長
- 3 **議 事**
  - (1) **胆江医療圏域における地域医療の課題について**
  - (2) **公立病院の期待される役割について**
  - (3) **その他**
- 4 **その他**

---

#### (1) 胆江医療圏域における地域医療の課題について

渡辺企画管理課長より、別添資料No.1 に基づき説明

#### ◀ 事務局（渡辺企画管理課長） ▶

周産期医療については、後ほど、あらためてご意見をお伺いしたいと考えておりますので、よろしくをお願いします。

#### ◀ 関谷議長 ▶

ただいま事務局より説明がありましたが何かご意見がございましたらお願いします。

#### ○ 佐藤委員（清和会理事長）

地域医療構想は厚生労働省主導でやっていると思うのですが、地域医療構想の中に、介護との連携はありますか。もちろん本当に大事なことだと思いますけど、本会議の目的に沿うのでしょうか。

#### ○ 杉江委員（奥州保健所長）

介護との連携につきましては、受け皿としての在宅医療の関係もあって、介護との整合性というのを求められております。具体的なデータは国が作っている最中なので、それが出た時点でどういう状況なのか示すことができると思います。関係ないという

ことではありません。

○ **佐藤委員（清和会理事長）**

事務局のこの質問内容や回答内容が含まれているという気がするのですけど。

○ **杉江委員（奥州保健所長）**

資料 No.1、No.2 については、皆さんからいただいた回答をそのまま記載しておりますので、事務局が記載したものではありません。

○ **佐藤委員（清和会理事長）**

第2回胆江圏域地域医療連携会議となっていますよね。これは年に4回開けという指導の下にやられている会議なんでしょうか。

○ **杉江委員（奥州保健所長）**

国は4回としていますが、岩手県では今年度は3回を目途にしています。

○ **佐藤委員（清和会理事長）**

医療構想について論ずるのが、この会議ですか。

○ **杉江委員（奥州保健所長）**

圏域毎で開催方法等違いますが、各圏域ごとに新しい会議を起こしても、メンバーの方が重なるところが多いので 併せて開催している例が多いのです。

○ **佐藤委員（清和会理事長）**

新しい会議というのはなんんでしょうか。

○ **杉江委員（奥州保健所長）**

例えば、地域医療構想を話合う会議ですが、国が求めてくる会議は名前が違うんですね。ここは、医療計画の会議と医療構想の会議を、胆江圏域地域医療連携会議でやるというように昨年決めているので、このようになっているわけです。

○ **佐藤委員（清和会理事長）**

胆江地域の医療計画をどうするかということじゃないんですか。

○ **杉江委員（奥州保健所長）**

おっしゃる通りです。今年の会議でもお話ししたことなんですけど、今まで皆さんのご意見等を伺う機会が少なかったのが、昨年ぐらいから出来るだけ説明時間を削ってご意見を伺う時間を増しています。

先生のおっしゃる通りまだ足りないというのであれば、更にこのような時間を増やしたいと思います。その場合、医療計画の会議もやらなければいけないのですから、

回数は増えると思います。それでよろしければ、先ほどの意見で3カ月毎に開催するという可能性も出てきます。

○ **佐藤委員（清和会理事長）**

地域医療計画を保健所でやられていますよね。ずっと保健所でカバーすることによっていいんですか。

○ **杉江委員（奥州保健所長）**

国が言うところの今度の第7次医療計画は県が作るものであり保健所が作成するものではないです。保健所が作成するのは、あくまでもその圏域について、地域の特性を生かした形で作るものです。

心筋梗塞、脳卒中とか各論についての5疾病5事業については県が全体のバランスを見ながら、各圏域においての状況を踏まえながら作ることになっています。

○ **佐藤委員（清和会理事長）**

県は、岩手県の医療構想は示してあるという立場ですよ。

○ **杉江委員（奥州保健所長）**

最初の説明にありましたように、地域医療構想というのはゴールで、こうなればいいなといういわば予想図みたいなものです。それに対してどの様に持って行くかは別な問題なんです。

その完成図は、県は昨年作っているわけです。その時に、これでいいのかという意見を当時いろいろ照会させていただいています。

国が一律で示している計算式、方程式に入れて出してきた数字なので、現実合っているかどうかは別問題ということもあるので、去年の会議で勝又先生がおっしゃったように今の時点ではこれに縛られるのはどうかという意見は当然出てくるかとは思っています。

○ **佐藤委員（清和会理事長）**

岩手県が示している地域医療構想の中では、地域の細かい医療計画は示していないですよ。病床数をどうしろというのみに触れられて、それを持って地域の医療計画もカバー出来るって考えが所長が最初におっしゃられたように、混乱している基なんじゃないかと思います。

○ **杉江委員（奥州保健所長）**

そもそもこの会議は、地域の医療に係る計画をどこまで決めるかについての、皆さんの課題共有等の場であり、実際いろんな先生方の意見を聞いて思うことですが、例えばこの地域における医療計画、先生がご指摘した介護と医療の連携、例えばこういう病気が出た時に、胆沢病院をスタートして、次はどここの病院、次はどうなって、最後は介護福祉、そういう計画までは保健所では現時点では作れません。それに対しての情報は提供出来るかと思いますが、現時点では保健所はそこまでの情報は持って

いませんし、最後を作る段階までの情報は持っていませんから、あくまでも各病院の機能分担をこういう場でやっていただき、市だとか町だとかそれぞれやっていただくしかないんじゃないかと思います。

ここは1市1町しかないですけど、保健所圏域って必ずしもそういうところとは限らないので、県の保健所で出来ることは限られてくるわけです。もっと市町村の数の多い保健所だと市町村毎に保健所がそこまでは出来ない。あくまでも保健所がやることは2次医療圏の中での話になります。たまたま胆江地域は2次医療圏の中の市町村の数があまり多くないので、そういう意味では実感が無いとは思いますが、市町村の数の多いところでは不可能になります。

### ○ 関谷委員（奥州医師会長）

今回の会議で、病院とかに関して意見を述べられたんですけど、所長さんも述べられておりますけども、市の方でも同じ様な文書を出したばかりなんですよね。同じことを2回も書く必要があるのか、逆に今回の目的、保健所さんでやる目的というのが、結局さっき言ったように、新市立病院ということもあって建築ということで地域医療構想と我々使っていたんですけども、県の方で地域医療構想というのが出てきて、それが頭の中でごちゃごちゃしている。

はっきりと県の方でしなくてはいけない地域医療構想、これは病院の建築建て替え関係なくやらなくてはいけないこと、そのどこまで県がやらなくてはいけないのか、はっきりしてほしい。結局、市の方も詳しく分かんないと県の方でやることではないか、市の方でやることではないかとか、その辺がわからない。

僕らもごちゃごちゃしている、そういうところを佐藤先生がいうようにクリアーにしてもらいたい。病床数に関しても、何床とそこまでいなくても、どこまでこの会議ですのかということですね、そこまでやっていくと地域医療構想全部やんなくちゃいけないのか、という話になってしまう。

市の方でやらなくてはいけない構想、計画が重なっちゃう感じになってしまう。

クリアーにしてもらいたいというのが本音です。

### ○ 杉江委員（奥州保健所長）

確かに、関谷先生、佐藤先生がおっしゃる通り、誰かがどこかで地域のビジョンといますか医療計画を作って、地域医療構想実現に向かってそのステップは必要なんですけど、県がやるとなると、例えばあなたの病院は実際は急性期ではなくて回復期が多いから回復期にきなさいと仕向けたとしても権限上出来ない。病院の経営者の方々が、自主的に将来の自分の病院の立ち位置と、将来予測を基に考えていくしかない。その将来予測の数字が、この地域医療構想の数字だと理解していただくしかない。国が言っているのは自主的にと強調しているんであって、行政が枠にはめようとはみ出た分を切り落として、枠にむりくり入れようとするものではない。

制度がそうである以上、県の出来ることは当然限られている。特に民間病院に関しては、経営にかなり踏み込んでいることになるので、今の医療政策室はそれをやる気

はない。情報、データを示して皆さんが議論をする場を提供しますが、県がこうしろとは言えないんです。そこがなかなか、こちらとしても難しいところでもある。

関係者の皆さんが話し合っていて、うちの病院はこうするかという形に持っていければベストだと思います。国公立に関しては、どうしてもうまく行かない時には、知事が強権を発動するという事は、一応残してはいる。県立病院の来年度以降の県の医療局の計画もまだ不透明な部分もありますし、診療報酬も今後どうなるかわからない。今の時点で2025年の話をかなり突き詰めて決めていくということは非常に難しいんじゃないかと思います。

#### ○ 小野寺委員（奥州薬剤師会長）

そもそも第2回胆江圏域地域医療連携会議と、地域医療構想調整会議を一緒にやるところが混乱、無理があるのではないかなと個人的に思うのですが。

#### ○ 杉江委員（奥州保健所長）

それは、この会で例えば今日皆さんが調整会議を部会として設けてほしいということであれば、そういう形ですということでしたら承りいただければ、規約を改定して部会として地域医療調整会議だけを話し合うことは出来ます。メンバーはほとんど全員同じになります。地域医療調整会議に参加するメンバーは国の定めとして、関係者を入れなければいけないので、ほとんど同じメンバーになります。実質この会議の回数は、先程も説明したように増えてしまう。地域医療調整会議の部会をやって、連携会議をやってと、続けて同じ日に時間をずらしてという裏技はあるかと思いますが皆さんの負担がある程度は増えます。保健所としてはどちらでも構いません。

#### ○ 川村委員（県立江刺病院長）

どうも足踏みしている感じに見えるんですけども。奥州市全体を見て、人口は減って病院も病床数はある程度保たれている。在宅医療もやっているんだけど、全体の医師も少ない、確保もままならないという状況で奥州市全体をどのように見ているかということを中心に皆さん考えると思うんですけど。その道筋が出てきてないのが現状だと思います。

奥州市全体をどのようにまとめるかは、保健所ではなくて市でよろしいんですね。市が奥州市全体の医療を含めて、どのように形作っていくか基本にやるべきだと思う。いろんな講演を聴いて成功している都市を見ていると、市が中心となってそれに医師会が参加するというような形になっているんですけど。今の現状で奥州市はどのような形になっているのでしょうか。

#### ○ 奥州市 健康福祉部 阿部部長

地域医療構想に絡んで、市が先導を切って地域医療構想等を作っていくべきではないかというご質問だったと理解しました。地域医療構想そのものにつきましては、そ

の単語だけとらえれば、やっぱり県の作るべき計画であって、地域医療構想そのもの、病床については、現在出来ている岩手県地域医療構想をまず頭に置くべきだと思います。

ただ、在宅医療、介護連携の話になりますと、いわゆる地域包括ケアシステム、あるいは計画になりますと市と町で作らなければいけないと認識しております。そのことについては、市が主導してといいますか、市が作るべきものであると思います。市の立ち位置とすれば、県の地域医療構想であって、市で地域医療構想のようなものを作るようになりますと、さきほど所長さんが申しました通り、権限とか市として民間の病院とか、強制的にとといいますか、そういった協力を求める形についてはなかなかできないのではないかと、ということで市の市立病院とかの医療計画というのは当然作っていくべきですが、奥州市内の地域医療構想あるいは地域医療計画というものは、なかなか作れない状況にあると認識しております。

#### ○ 佐藤委員（清和会理事長）

繰り返しの議論になりますが、地域医療構想を県が作るのは正しいです。ただ今問題なのは、市の地域医療計画はあるの、ないのということなんです。市の地域医療計画を主導するのは行政ではないんですか。民間に対して指揮権がないってそれはそれでしょ。

ただ、この地域医療構想でさえ、今、構想として民間病院に諮問出来るって項目付けようとしていますよね。新しいワーキンググループがやっていますが、公立病院、自治体立病院には県知事が権限を発動出来ることに変わりますね。その時に同時に民間病院に諮問を出来るっていうふうに変わります。ですから地域医療構想そのものは、病院の病床を削減する、または増やすかもしれません、それをやるだけで、地域医療計画に踏み込むところは全く無いわけですよ。そこをやるのは市が主導していただかないと、今、介護保険はどこが主導してます。県ですか、国ですか、市じゃないですか。そういったこともあって、そこができるのはまさしく市しかないの、市が医療計画を作れというか、みんなの意見をまとめるのは市しか出来ないのではと僕は思うんですが。地域包括だけじゃないですよ。地域包括も確かに大事なファクターではありますけど。地域包括だけじゃなくて、ケアだけじゃなくて、介護も関わるでしょ。ここに歯科医師会長も薬剤師会長もいらっしゃいますけど、その方々も入れた総合的な医療計画を作るのは市じゃないんでしょうか。

#### ○ 半井委員（総合水沢病院長）

佐藤先生がおっしゃることはごもっともだと思う。市がイニシアチブとしてこの地域の医療計画、全体を書く前にやんなきゃいけないこと、市にはどうかなと思います。

奥州市が運営している医療機関の問題であって、言うまでもなく大命題は新市立病院になりますし、それのみならず医療局の中に放漫される他の医療機関との、より地域住民からの納得・指示いただける改革とか。地域医療構想って言葉がだいぶ混乱し

ているようなので、まず市の運営する医療機関に関するグランドデザイン。この言葉はあまり好きではないですが、まず市の医療機関のグランドデザインを明確に宣言した上で、次のステップが川村先生がおっしゃったことじゃないかと思うんですが。グランドデザインをというものが一向に姿を現していないのが現状だと私は理解しております。

「市がイニシアチブをとって問題解決にあたるべき、今までを振り返るとある目標達成への情熱も真剣が感じられない」と書いたのは私なんです。今日、私が言っていることが戯言でない状況になっていると思います。もちろん新市立病院を論じるだけの場ではないことは承知していますが、どうしてもそれが大きなファクターになってくると思うんですが。少なくとも現状ではこの会議における最大のキーパーソンが市長だと思っていますけど。

市長ご自身がお出になってないということ。公務という名のもと、公務の実態私は知っていますけど。ここに市長が存在しないこと自体、この会議の私の戯言ではない、市長の頭で新市立病院含めて奥州市の医療局がどうするかランキングがどこら辺にあるか如実にわかりいただけだと思います。以上です。

#### ○ 小熊委員（奥州歯科医師会長）

ずっと話を聞いていまして、前回第1回の連携会議の中で、この地域医療構想の大雑把な話をされて、今日は、私は地域医療構想ではなくて、先ほど佐藤先生が言っていましたように地域医療計画をどのように立てていくか、そのために、この前、質問や要望の紙を渡されて皆さん書いたと思うんです。その中の胆江地域医療の課題について、貴施設、自治体の地域医療において担う役割、公立病院に対する役割等、本当に中身が地域の中でいい質問だなと思って私は書きました。今日はその中からいろいろ話が出て一番やっぱり問題なのは先程佐藤先生が言ったように、コーディネートしてくれるところが必要なわけですね。先程保健所長さんが言ったように、保健所は担当しないと言っているわけですから、こういう場を与えるのが保健所だと思うんです。その中でこの地域医療計画を立てていくには我々が立てていかななくてはならないので、そのリーダーシップを取ってくれるのは、やはり奥州市、金ヶ崎町の皆さんが、それを音頭取ってやってもらわないことには、この先進まないと思います。

先程半井先生がおっしゃったように、市立病院がどのように建てるかというのも凄く大事なんですけども、私達が前から言っているように医療構想の中で、地域計画をする中で病床はどのくらい欲しいのか、民間もこのくらい協力しますので病院は減らしますとか、そういうふうな話し合いをする為にもこの計画の中身が決まらないことには、市立病院をどう建てようかはなかなかそこまで行かないと思うんです。

我々三師会が言っているのはそこなんです。反対ではないですけどここまで医療構想が出て地域の医療計画を立ててくださって言っている中で、これだけの参考意見が出ているのでまとめていってやるためには、市と町のガイド者がリードを取ってやってもらえれば、今日集まってきた中身を精査していけば話し合いになると思うんですがいかかでしょうか。

○ 半井委員（総合水沢病院長）

小熊先生がおっしゃるのは大概の意見なんですけど、私の頭の中では時間の問題からいって発想が全く逆で、私は新市立病院を論じるつもりはないんですけど、個人的な頭の中はそれでいっぱいなんですけど、145床、実質は130床ぐらい、8万7千人の年間の外来患者、はっきり言って当院はある日突然箱ごと全部消滅するリスクがあることを皆さんはどれほど受け止めているのか。毎回同じこというんですが、そのものがそっくり無くなる。その時にどこが受け皿になるのか。いつ、どこに、どれぐらいの規模の箱が出来るのか、確定しないうちは私どもにとっては、10年20年先の冒頭の話にたどり着けないんですよ。何時まで経っても。それはご理解いただけると思うんですよ。まず地域医療構想の話で議論する、それがどうこう言っているんじゃないんです。その前に当院が無くなるということも含めてですね、無くするってことも含めて、無くなった場合を想定して初めて議論が成り立つのではないかと、10年20年先のことも考えろと皆さんおっしゃる、うちは5年先といたって、とっくに無くなっていきやいけない。行政の怠慢です。これを前提に議論していただかないと。「古くなったからといってそれだけで建て直すってわけにいかないよ」とか、「心配はわかるけれども」とか、「反対はしないけども」とか、まずその問題をクリアーした上で、水沢病院のためではないんです。145床毎日360人の外来患者、どこが引き受けてくれるか、くれないならくれないで考えていただきたい。それがまず先じゃないですか。どう考えてもそれがロジックだと思うんですが。それがどうして理解いただけないか、私が頭がおかしいんでしょうか。私は別にぼけ老人の最期のあがきをするつもりはないんです。これに対する回答を出さないで、10年20年先の地域の話を出れますか。

○ 小熊委員（奥州歯科医師会長）

先生私が言いたいのは、市立病院の建替えの問題を言っているわけではないんです。ここの地域医療構想から受けて、この地域の医療計画を話し合う場なわけですよ。先生は、耐震設備が大変なので、もしかしたら壊れるので早く建ててくれというのは市立病院の話だと思います。その中で我々が計画を立てる時に、皆さんで病床数とか地域ケア、連携をするための計画を立てるのとは別物だと思って私は参加しています。

○ 半井委員（総合水沢病院長）

私はちょっと違います。

当院の145床の有り様をどう位置付けるかも含めて議論していただかないと。この狭い地域で145床というのは決して馬鹿に出来ない数だと思うんで。それに対するご回答いただけますか、先生方。

○ 小熊委員（奥州歯科医師会長）

だから、今そういう会議をしているわけじゃないですか。市立病院を建てるためのそちらの方の会議であれば成り立つと思いますけど。

今日お話しているのは市立病院だけの話ではないと思うんですよ。その流れを作らないとこれから先進まないということを行っているんだと私は理解しています。

○ **半井委員（総合水沢病院長）**

新市立病院だけの話をしているつもりはないので、最初に戻りますが、市がグランドデザインを提示するのがまず第一という考えです。私が強調したいのはそこです。その中で、最大要素が新市立病院ということを申し上げたいのです。市がもう少し明確なここにいらっしゃる方々に、一般住民から理解、納得させるような市の運営をどう提示させるか、それがなされていない現状では話が先に進まないということをおっしゃただけです。何が何でも新市立病院を早急に建てろと言っているつもりはさらさらございません。実際に物理的に限度を超えているこの病院の問題を無視して、全体に議論するのは成り立たない気がします。

○ **杉江委員（奥州保健所長）**

委員の皆さんから貴重な意見がいろいろと出ておりますが、この会議の基本は、病院といいますか各医療機関の役割分担、機能分担を皆さんで共有して話合っていくのが最大の目的になりますので、そういう中で次の所出てきますけど、各病院に求める機能。地域の方がそれぞれこういう機能を担ってほしい、地域としての役割を担ってほしい、というのが次にでてきますので、病院を建てる建てないをこの場で議論する場ではないと思うし、そういう権限はこの会議にはございませんので、水沢病院の建築そのものにつきましては、別な機会にお願いしたい。中身の機能の話について次の議題でも取り上げていますので、皆さんのご意見を交換していただければかどうかということところです。

◀ **関谷議長** ▶

時間の関係もございますので、次に進みたいと思います。

他に御意見がございましたら、配布している様式により、後日、事務局へFAXで提出してください。

(2) **公立病院の期待される役割について**

渡辺企画管理課長より、別添資料No.2に基づき説明

◀ **関谷議長** ▶

ただいま、事務局より説明がありましたが、(2)公立病院の期待される役割について、意見交換を行いたいと思います。

○ **佐藤委員（清和会理事長）**

この項目に回答するときも不思議に思って回答していたのですが、奥州市は2つ公

立診療所がございますよね。これに関しては、どうして割愛されているのでしょうか。

○ **杉江委員（奥州保健所長）**

今回は特に公立病院に限ったのもので、診療所に関しては公立の診療所以外にも、民間の診療所がたくさんあるわけです。民間の病院についても同じ様な形での意見交換が必要かと思うんですけど、取りあえず、今回は最初ということで公立の4病院だけを出しさせていただいたと思います。診療所等を見捨てたという意味ではありません。

○ **佐藤委員（清和会理事長）**

もし公立病院に期待される役割について意見を述べよというのであれば、各公立病院の医療資源ってどうやってわかるんですか。現在の医療資源を活用したうえで、高額な医療資源を最大に利用できるということで期待される役割じゃないのでしょうか。その前提条件を示さずに単に絵空事でもいいから期待されるのを書けって言われるのはいいかもしれないですが、これをまとめてどうされるんですか。

○ **杉江委員（奥州保健所長）**

今回地域医療構想をそれぞれの病院長が判断する上で参考にさせていただければと作ったもので、各病院の医療資源に関しましては、今回の病床機能報告をやっている時期なんで、最初そのコピーを差し支えない範囲でいただいて出そうかと思いました。しかし資料が膨大になるのでこの会議に間に合わないということで、割愛させていただいたという経緯があります。今後この調整会議をやっていくうえでは、各病院が実際に持っている医療資源だとか、実際どういう患者さんを診ているのかというのを各レセプトベースで踏み込んだ形での情報共有しながらディスカッションしていった方がいいのではないかという意見もいただいていますので、皆さんの意見を聞きながら、今後進めていきたいと思えます。

○ **佐藤委員（清和会理事長）**

所長が期待される今回のアウトカムは何ですか。

○ **杉江委員（奥州保健所長）**

今回のアウトカム、新水沢病院のそれだけを話し合う場ではないですが、奥州市に対して、水沢病院に対してはこういうイメージというか、こういうのに期待していますということを形として出せれば、それが一つです。

○ **関谷委員（奥州医師会長）**

ここで水沢病院の話をするということは結局、県のほうがそっちをしてくれるのかという話になりかねないんじゃないでしょうか。それは余計ごちゃごちゃする元だと思えますけども。

○ **杉江委員（奥州保健所長）**

おっしゃる通りと思います。ただ、今まで市がやってきた会議、県がやってきた会議の中で各論はみんな頭の中では思っているし、口ではそれぞれの病院でやってほしいと話しているのですが、それを文書の形として出したのは実は見たことはなかったのです。そういう意味で、この会議に水沢病院に限ってではなくて、将来の江刺病院、まごころ病院、胆沢病院はおそらく現状維持になるんだと思うんですが。そういうところで、圏域の関係者が希望や要望持っているというもので参考にさせていただきたいということで取りまとめしたものです。だから水沢病院を特出しにしたということではありません。

### ○ 柏山委員（病院事業管理者）

この会議の性格の問題を議論されているのですが、さきほど半井先生がおっしゃったのは10年後20年後を考えたいうえでも、市立病院が水沢病院がどうなるかは大きいファクターだと思うんですよ、まず一つは。何が先か、地域医療構想という言葉をとっても、地域医療構想は病床機能の削減でしょ。基本的に。300床減らしなさい。それに対して異論があると、これは違うのではないかと先生方おっしゃっているのですよね。来年3月に作る地域医療計画、それについて先程杉江所長からの話だったんですが、今度は市の地域医療計画についての話がある、ここでは何を議論するのか、まず現状分析をしっかりして、水沢病院が今はあるわけですから、あるという前提で話をするのかどうかということがまず一つだと思います。新しい病院が建つ、建たないではなく。そうしないと病床規模の話出来ないでしょ。役割分担の話をどういうふうにするんですか。それを市でやれと言うのであれば市でぜひそういう部分の意見は言う必要があると前にもお話している。県も市も行政主導をすべきだとお話して、なんか今話を聞くと、県も市も医療政策どうするんだということが抜け落ちていないかなって思います。厳しい行政批判を私どもは受けているという認識で前回も聞きました、今回も同じ話、何も進まないと思いますよ。これだと。美山病院の先生がおっしゃったようにこの議論を10年続けても同じじゃないですかという話をおっしゃいましたよね、記録に残っていますから、色々な意見があると。新市立病院の話も別の場でどうぞというなら私は別の場でもいいですから、しっかり連携はしなければならぬと思いますよ。この会議と。その辺ははっきりしていただかないと、次は何を話したらよいか何もわからないので、市の方にも県の方からも市の方でこういう会議持ってくれとか、これを一緒にやりましょうとか、行政の部分で話をすべきだと思います。

### (3) その他

#### ◀ 関谷議長 ▶

「(3) その他」ですが、周産期医療についてご意見をお伺いします。  
まずは、勝又委員よりお願いします。

## ○ 勝又委員（県立胆沢病院長）

周産期、小児医療が非常にピンチというか、あと何年持つかわからない状況です。

何とかしようということで、あちこち当たってみたのですが、とても医者を引き張ってこられる状況ではないということですね。

それで何か現実的にできることはないかということ最近考えているのですが、一つできそうなことは、医療政策室で作っている岩手県の周産期のブロックが4つになっています。ここは北上から南の一関まで一つのブロックになっておりますが、北上、奥州、一関の産科に関係している医療機関の人たちが、一同に集まって連絡会議みたいな連携をもっと密にできるような話し合いをする場があれば、もっと紹介がスムーズにいくとか住民の皆様のためになることが出てくるのではないかと思います。

それを県の方に私が言っても相手にされないので、一つ提案ですけれども、この会議の名前で文書を出してもらいたいかなと思いますが、どうでしょうか。

## ○ 関谷委員（奥州医師会長）

正直言いまして一関の方は撤退しているところがあります。開業医の先生は4軒胆江地区であるんですけども。その先生達も高齢になってきていますからいつ辞めるか。そうすると県議会議員さん達に向いてしゃべっているんですが、どうしても県の方をお願いしたいために議員さん達をお願いしているんです。

例えばこの地域から、特に一関から中部に救援したいから送るとどれだけ時間がかかるということもあるんですよ。県が考えているほど悠長なこと言っていられない。

周産期もそうですし、小児期もそうですし、子供に異常があった時、救急車なんかで送っても中部地域に着く頃には子供が息を引き取っているという、それが現実です。これからの人口問題を抱える上で、どうしても地域にどんな形でもいいから、周産期・小児期は欲しいんですよ。そのために産婦人科の先生なんかは、それ専用の高速道路を作れという方もおられます。そういう道路が出来るわけでもないし。盛岡なら周産期を全部県の方で預かって無料でやる団地を作れ、そういう言い方をしている先生もいます。そこまで現実的に困っているのが本音です。

勝又院長をはじめ、先生達が一緒になって一生懸命、いろいろなところに話に行ってもらっていますし、奥州だけじゃなくて一関も同じ状況なんです。医師会の方で一緒になって話をしなくてはいけないと思っている最中です。ぜひよろしくお願ひしたいと思っています。なかなか解決できる話ではないと思っているんですけど、難しい話というのも分かっているのですが、ぜひよろしくお願ひ致します。

## ◀ 関谷議長 ▶

勝又院長から意見が出ましたけども、県の医療政策室主催と文書を出す形でよろしいでしょうか。

各委員：【異議なし】

### ○ 杉江委員（奥州保健所長）

追加で説明させていただきます。次の医療計画の中で、周産期医療計画は最終的に決定にはなっていないんですが、今の周産期医療については4つの医療圏をそのまま維持する形になりそうです。その場合にここは、中部と胆江と一関両磐の3つが一つの周産期医療圏になる。県の周産期の検討する会議が開かれているんですが、ここは一つの周産期医療圏の1つでしかないので、しかも母子周産期医療センター、産科の病院がこの圏域にないものですから、この県南地域の周産期医療圏からその会議に出ているのは、北上済生会病院と中部病院の産科の先生と磐井病院の小児科の先生なんですね。この胆江地域から委員会にも出ていません。このため地域の現状はなかなかこの会議の方にも伝わっていないのが現状です。これを打開するために、今年の3月皆さんに関係者に集まっていただいて、産科の医療機関の現状をみんなで共有する場を設けて、そこに医療政策室から担当課長にも来てもらって、現状を訴えたところですが、まだ動いてない。その会議への参加も今のところ見送られている状況ですので、この地域の状況を特に済生会とか中部病院にわかっている、情報共有していただく必要がまずスタートラインになりますので。中部病院は最近、患者さんを断るといふ事例も出てきつつあるそうですから、そうなると大変なことになる。中部にある2つの病院に胆江地域と両磐地域の現状をわかってもらうということで。中部病院と済生会病院が大変だというなら、県の方で2病院に対し更にマンパワーなりつぎ込んでもらう、そういうのもありますから、ぜひこの会議の名前を持って県の方に要望させていただければと思っているしだいです。

### ○ 佐藤委員（清和会理事長）

4つの一関、奥州、金ヶ崎北上、県内でまとめられているということですが、市は前からその情報は持ってられたんですか。持ってられて、説明を受けたうえでそれをよしとされているんですか、それは市の医療計画の中にあるんでしょうか。

### ○ 奥州市 健康福祉部 健康増進課 佐賀課長

県の周産期医療計画の4つの医療圏のくくりでやっている、次の計画にもその通り継続だという部分の内容については、現行の県の周産期医療計画の中でそういう区分けになっている内容ですので、4周産期医療圏だけと承知はしております。今見直しをやっている最中で、計画の中で周産期医療圏の取扱い、県がどういう状況でやっているかの情報については特には所長さんがおっしゃったような状況以上の情報はございませんので、継続だという部分は予想はしておりますけど、そういう状況にいる。

ですから承知という部分については、今までの計画の中身ですのでそれは承知してございますし、先程出ましたが母子医療センターの設置と周産期医療圏の取扱いも含めて要望はしてきているつもりでございますけれども、なかなか医療資源の問題とか、我々の要望した形にはなかなかできないということで今まで経過している状況です。

### ○ 梶川委員（かじかわクリニック院長）

中部病院で患者を引き受けなくなっているということに関係しているのですが、中

部病院にいたものでその立場で、これも議員さんをお願いしたいことなんですが。中部病院と済生会病院もどちらも北上市にあります。産科の医師が厚いのは中部です。それに対して小児科が NICU とかがあって厚いのが済生会になります。

ですから、例えばハイリスクのベビーが産まれるようなケースの場合にはどちらに送れば良いのか。産後を考えれば中部ですけど、産まれた後のことを考えれば済生会となる。例えば中部病院の中にいると、お母さんがハイリスクの子供が産まれる可能性があるので、うちではなくて済生会の方がいいんじゃないか、そういうケースももちろんあると思うんです。そういう断り方もあると思うんです。ですから周産期医療ということで考えるのであれば、周産期というのは、産まれる前から産まれた後までになるわけですから、考えるのであればその辺を含めてご検討いただきたいと思うんです。

もちろん現場の医師は仲良く連携をとってやっていると思うんですが。ちなみに済生会の婦人科は岩手医大です。中部病院の産婦人科は東北大学です。中部の小児科は弘前大学です。北上済生会の小児科は岩手医大です。そういう大学間の違いもある、いろんな問題が絡んで、ここの胆江地区も含めた医療圏で周産期を論じるのであればぜひその辺も含めて再構築というか、そういうのを検討していただきたいと思います。よろしくお願いします。

#### ◀ 関谷議長 ▶

それでは、本日ご出席いただいているオブザーバーの皆様から何かございましたらご発言をお願いします。

#### 【特になし】

#### ○ 遠藤委員（看護協会奥州地区支部長）

確認したいことがある。杉江所長さんの方から、この会議で医療構想というか地域医療を議論するのは、保健所は場の提供だということで、委員の中からも市が胆江地区の医療計画の中心になったほうがいいんじゃないかと意見をいただいたのですが、市はそれは私達の役目じゃないというような話で終わって、尻切れトンボになる感じがして、次の会議では何をここで議論して市はそこまで何を、そういうことが無いままにこの会議は終わってしまうのではないかとこの感じがするんですけども、どうなんでしょうか。

#### ○ 杉江委員（奥州保健所長）

国が示している地域医療構想調整会議のイメージは4回。その4回の中身は国がイメージしている。今、病床機能報告をそれぞれの医療機関でされているので、その結果がまとまった時点でそのデータを皆さんにお示しして、それぞれの病院の関係の皆様が県のこの地域の地域医療構想の数字とそれを照らし合わせて、自分達の医療機関をどうするこうすると考えていただく材料として提供する。そういう流れを毎年繰り返して行って 2025 年に向けてやっていく。どうしても現状に合わない医療機関が出

てきた場合には、さっき佐藤先生がおっしゃったように、今の時点では公立病院に限っていますが、将来は民間病院にまでいろいろな形で今の時点で知事が名前を公表したり、何で言うこと聞かないかに質問をしたり、それに対して回答を求めたりというところまでは出来るんですけど、更に強化していく可能性はあるかもしれません。

あくまでも地域医療構想は国が言っていること、イコール県が言っていることになってしまうんですけど。自主的にそれぞれの病院の経営者、管理者の方が周りの病院との関係、自分達の立ち位置を見ながら、将来自分の病院をどうしていくか。患者さんも当然人口が減ってベッド数を減らしていくというのは選択肢に入ってくるわけです。患者がいない病院を維持していたら当然人件費やその他で赤字になります。ベッド数も何もしなくてもだんだんと減っていくだろうというのがベースにあるんだろうと思います。

1年2年の間にベッド数を地域医療構想その数字から、何百床オーバーしているから一気に減らせという話にはつながらないので、保健所はデータを提供しながら皆さんが病院間で役割分担するまでの場を提供するお手伝い、情報、何を提供するまでは出来ます。県があなたの病院は何床に下さい、あなたの病院これを下さい、そこまでは言えない。

#### ○ 関谷委員（奥州医師会長）

クリアになっていないと遠藤委員が質問されたのは、地域医療構想ということで、いろいろな話がでてきたじゃないですか。今所長さんが言われているのは、病院機能評価の問題、そこだけを取り上げることだけなのか、他の分まで県の方がお膳立てするという形になり、市の方もそっちの方でやっているならどうぞって話になるから、それではちがが開かないんじゃないかということをおっしゃっていると思うんですね。そこははっきりクリアにした方がいいと思うんですけど。ここで話すのは将来に向けての各病院間同士の病床数とか重ねて議論していくことを中心に考えた方がよろしいんじゃないかと思いますがどうでしょうか。

#### ○ 及川委員（まごころ病院長）

参考資料2でお話されたんですが、医療機能を自主的に選択するという表のところですが、「医療機能が見えにくい」と困っているという主語は誰なのでしょう。確認したいのですが。

#### ○ 杉江委員（奥州保健所長）

困っている方はこの地域ではほとんどいないと思います。

#### ○ 及川委員（まごころ病院長）

困っている人がいないのに、苦労しているのですね。  
患者さん、住民ですよ。主語は。

○ **杉江委員（奥州保健所長）**

住民です。

○ **及川委員（まごころ病院長）**

よく分かりました。

○ **川村委員（県立江刺病院長）**

少し前に戻りますけど、2025年には団塊世代が後期高齢者に入っていきますけど、これは序曲で更に10年間で最悪の状況となり、高齢者がどんどん増えます。高齢者に対する医療・介護をどうするか考えなければならないと思います。高齢だからといって急性期、何でもかんでも救命するかどうかということも考えなきゃいけない時代になると思います。となると、それぞれの病院が今までやってきたような医療は出来ないと思います。回復期、慢性期中心になってきます。

ですから、おのずと医療構想を自然とそれぞれの病院が考えていかなきゃならない。もちろんドクターも意識改革をして全部が急性期だけに留まらず、慢性期、終末期、更には外来も含めたことまで手を伸ばさなきゃならない時代だと理解しなくてはと思います。本当に大変な時代になってくると思いますので、そうなるとおのずとそれぞれの病院はどのような機能でやっていくかというのが決まるとと思いますので、柏山さんが言ったように、全く前には進まないというわけではありません。本当にそれぞれの病院が今後どうするか、真剣に考えていかなきゃいけない時代に来ていますので、そこはこれから皆さん協力してやってかなきゃなんないなと思います。高齢者が多くなってくるので、在宅も含めてどうするのか、医師、歯科、薬剤科、介護、福祉、全部連携を取りながら本当にしっかりやらなきゃなんないなと思っております。こういう高齢者がどんどんどんどん増えるにあたって、市はこの奥州市をどのように考えているか、今一度考えていただいて、これをリーダーとしてまとめていただきたいのですが、どうなんですか。市は出来ないと言いましたけど、私、いろいろと講演会を聴いていて、やはり市はいろいろとやっているんですね。医療もそうですし、介護福祉も全部市が把握していますから、それが出来ないんであれば、やはり成功しているところに動いてノウハウを把握して早急にこの問題を前に進めていただきたいのですが、いかがなものでしょうか。

○ **及川委員（まごころ病院長）**

高齢者がどんどん増える介護の問題は、2000年4月1日に介護保険が始まる時に、みんなで議論して介護保険が始まりました。17.8年経ちますけど、この間、何も進んでないかのように思いますが、凄く変わったと思います。

施設も凄く増えましたし、癌患者が前は胆沢病院から出てこなかった。末期の方がどんどん在宅で最後を看取るという方が増えてきて、我々も数は少ないが看させてもらっています。あと胃瘻、10年ぐらい前まで食べられなくなった高齢者に胃瘻するのが当たり前の時代だったが、今はせいぜい2割弱ですね。この10年でいろんなことが凄く変わっている。市が命令したわけではないが、時代に適応して、それぞれの病院、

あるいは県庁や医療局が連携し合って何とか対応していると思う。市が命令しないと動かないのではなく、現実 100 点満点では決してないが 0 点でもない。市が一貫して進めてきたことってあるんですかね。この場で市が決めなさいと言われてもなかなか難しいんじゃないかと思っています。例えば、震災や津波、疫病、感染症がおきれば大変なことになる。高齢者は日々動いているわけです。それぞれが介護保険が始まって、それぞれの病院が病床機能を利用して対応しているんだと思う。そういう歴史的な経過があるということのを少し考えていただいて、そんなに大変なことになるというわけでもないと私的には思っていました。

#### ○ 柏山委員（病院事業管理者）

私がお話したのは前、美山病院の先生がこういう議論をしていますが、何の会議ですかという話をして病院の先生方がご苦労なさって介護福祉の関係者もいらっしゃいます。そういうことでは十分にいろいろと頑張っておられると思う。そういうのを言ったのではなくて、市・県がその上に更に行政主導を積み重ねないと、10年20年30年後といってもみんな倒れますよね、施設でさえも、どんどん老朽化していますよね。そういったことを見据えるのであれば、現状をしっかりと現状分析、(いろいろとご批判をいただきましたので)きちんと基礎調査すべきではないかということ今取り掛かっています。

県と連携をして、市と連携をしてやるべきでしょうということをお話したので、医療介護福祉施設が、たくさんできているのも知っていますし、介護問題も十分承知しています。そういうことを話したのではないということでもあります。反対というより、いずれ危険覚悟ですぐにマルカンデパート、水沢病院が移転新築なり改築をなさないと、県の指導が出てくるわけです。それが現実ですから。それは市の方でもう一度はつきりすべきだと思います。国・県の話じゃないです。それを含めてしっかりご理解をいただいて、先に進むべきでしょうということでございます。

## 4 その他

### ◀ 関谷議長 ▶

その他について、事務局よりお願いします。

### ◀ 事務局（渡辺企画管理課長） ▶

次回会議の開催ですが、12月を目途に開催したいと考えております。

なお、次の会議では医療計画地域編について、案を皆様にお示しして協議していただきたいと考えておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

#### ○ 佐藤委員（清和会理事長）

地域医療についてしゃべられるんですか？

○ **杉江委員（奥州保健所長）**

基本、県の草案が出てくるはずなので、それについての意見をいただくのがメインになるかと思います。地域編については、かなりバサッとしたものになります。それについては、こういうのを作りたいと思っているという草案は出したいと思います。

○ **佐藤委員（清和会理事長）**

これは保健所が作った草案にということですか。

○ **杉江委員（奥州保健所長）**

たたき台はうちで作ります。今の医療計画の地域編と同じになるわけですが、文言とか内容については皆様のご意見を伺って作っていく。分量があまりにも少ないので、細かいところまで書けないんです。

○ **佐藤委員（清和会理事長）**

保健所が基本計画を、地域医療の計画を立てるのは、なじまないのでは。

○ **杉江委員（奥州保健所長）**

計画というものではないんですね。地域編に関しては。あくまでの医療計画の本体5事業5疾病については県が作るものですから、県の審議会で。

○ **佐藤委員（清和会理事長）**

胆江地域の医療計画を県が作るんですね。

○ **杉江委員（奥州保健所長）**

そうなりますね。

○ **佐藤委員（清和会理事長）**

それそうですか。

○ **杉江委員（奥州保健所長）**

そのように今までやってきています。

○ **佐藤委員（清和会理事長）**

地域医療構想ではなく、地域医療計画を県が作るんですか。胆江地域の。

○ **杉江委員（奥州保健所長）**

地域医療計画というか、医療計画ですね。岩手県の医療計画を。

○ **佐藤委員（清和会理事長）**

県はそうでしょ。

- **杉江委員（奥州保健所長）**  
その中に胆江圏域も中に含まれるんです。
- **佐藤委員（清和会理事長）**  
医療政策室の見解が違うんじゃないですか。
- **医療政策室 田高主査**  
担当課長が他の圏域の会議に出ておりますので、欠席しております。申し訳ございません。今の話ですけど、岩手県の保健医療計画は、地域医療政策室の方で案を求めているところがございます。県の医療計画の中に、地域編ということで各圏域の構成について書く部分がございます。これについて、次回案をお示しして協議をしたいということだと思います。
- **佐藤委員（清和会理事長）**  
地域医療計画が上がってきて、その地域医療圏の。  
それを県がまとめるとスタンスじゃないんですか。
- **杉江委員（奥州保健所長）**  
そうではないんですね。
- **佐藤委員（清和会理事長）**  
それだったらこの会議も無意味じゃないですか。県が上からトップダウンで下ろせばいいってことですか。
- **杉江委員（奥州保健所長）**  
それに関しての県が作った医療計画に対しての意見をその場で述べていただくということで、当然、佐藤先生がおっしゃったことは述べていただいて。県の方にそれは。
- **佐藤委員（清和会理事長）**  
市の意見ってどこに反映されるのですか。
- **杉江委員（奥州保健所長）**  
医療計画の主語は県なので。
- **佐藤委員（清和会理事長）**  
県の医療計画でしょ。
- **杉江委員（奥州保健所長）**  
この地域の精神科医療どうするか、心筋梗塞どうするか、5疾病5事業それぞれについてのネットワーク、連携、県の中の主だった医療機関の連携体制を作っていくの

が医療計画になりますので、当然、胆沢病院の立ち位置だとか出てくるわけです。医療計画の中に。

○ **佐藤委員（清和会理事長）**

県がその地域の医療機関の連携まで立ち入るんですか。

○ **杉江委員（奥州保健所長）**

それが現行の医療計画ですし、今後もそのようになっていく。極端な言い方すると、あまり詳しいものではないんです。

○ **佐藤委員（清和会理事長）**

でも連携に触れられるって詳しいですよ。

○ **杉江委員（奥州保健所長）**

実態にそぐわないようなものが、今まで過去にもあったわけですよ。

○ **佐藤委員（清和会理事長）**

地域の詳しいことわかるのは市じゃないですか。県は絶対わかるわけではないんですよ。

○ **杉江委員（奥州保健所長）**

おっしゃる通りなんです。私が大船渡にいた時、前任者は別な医療地域における医療計画みたいなのをその地域でかなり詳しいものを作っているんです。それは県や国が作る医療計画とは別物になります。例えばそういうものをこの地域で市が中心になって県も一緒になって作っていくということは今後ありだと思います。あくまでも医療計画は現行で医療計画をご覧になっていただければわかるかと思います。ああいうものなのです。

○ **佐藤委員（清和会理事長）**

それを議論するんですか。

○ **杉江委員（奥州保健所長）**

せざるを得ない。

○ **佐藤委員（清和会理事長）**

県の方で詳しくわかっているんですか。市の隅々まで医療状況とか。

○ **杉江委員（奥州保健所長）**

私からは何とも言えない。ただ、医療計画を作る委員は、いろんな先生方が入っていますので、5疾病5事業の項目ごとに委員の先生方が委嘱されていると思いますが、具体的にどうやって作っているか知らないところです。

○ **医療政策室 田高主査**

これが県の医療計画になります。後ろの方に地域編というものがございまして、圏域の地域編の5疾病と5事業の課題と取組の方向性というものが求められていますが、そこについて各地域でご意見いただいてまとめるということになります。

○ **佐藤委員（清和会理事長）**

計画は5疾病と5事業だけではないですね。

○ **医療政策室 田高主査**

はい。

○ **佐藤委員（清和会理事長）**

地域の方で考えなければならないですね。5疾病5事業しか触れていませんよね。だけど地域の医療計画、それじゃ笑うでしょ。それを議論するのは何が目的ですか。貴重な時間みんな割いてるけど。

○ **杉江委員（奥州保健所長）**

ご指摘の通りで、結局、医療計画を作るための会議ってなっちゃうので、それだけじゃせっかく皆様集まっていたくので、まさに今日やった会議の延長線もありますし、説明が無かったんですけど地域医療構想における「医療と介護の整合性」というのが国の言い方になるのですが、そこら辺の説明も出来るかと思えます、次回の会議で。

あくまでも医療と介護の整合性については、非常にバサッとした話になると思えます。意見をいただいてもそれについて回答できるものにはならないかなと思えます。

◀ **関谷議長** ▶

それこそいろいろあると思えます。2回目の会議で質問状を書かせて、同じことやってどっちがどうなんだということがあって話をしたんですけど、所長さんも県の方からこれやれって話になっているからしなくてはいけないという辛い立場だとは思いますが。

これだけの人を集めてやるわけですから、もうちょっと内容のある会議になれば、内容が無いというと失礼ですが、正直、これだけ時間をかけて何が結論だったんだろうと正直そういう気持ちは持っております。

ですから次の話し合いなんかも十分検討してやる方向でと思っています。

◀ **関谷議長** ▶

以上をもちまして、本日の内容の全てを終了します。

ありがとうございました。進行を事務局にお返しします。

◀ **渡辺企画管理課長** ▶

それでは、これをもちまして、平成29年度第2回胆江圏域地域医療連携会議を終了いたします。